

令和5年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大國小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

運営に関する計画の最終評価等から、大國小学校が様々な教育活動に取り組み、丁寧に検証していることがわかった。今後も子どもの学習意欲が高まるような教育活動や行事等に取り組み、積極的に教育実践を積み重ねてほしい。そして、学力向上に力を入れてほしい。本校の学力については課題が大きい。令和5年12月に実施された経年調査の結果や、令和6年1月に実施された漢字検定の結果を考慮すると、昨年度に引き続き、学力向上の兆しが見える。特に4年生では、4教科において大阪市平均を上回り、これまでの積み重ねが結果に表れている。今後も引き続き、課題に焦点をあて、自ら学びに向かうような取り組みを継続してほしい。

下校時の安全見守り活動等については、子どもたちとあいさつを交わしたり、声をかけてくれたりすることが、日々の見守り活動の励みとなっている。登校が遅れがちにならないように、私たちからも子どもや保護者に声をかけ、地域住民全体で見守っていきたい。令和5年度は、「大國盆おどり」「大國子ども食堂(まんぷく)」「6年大國集会所訪問」など、地域との交流を行うことができた。今後も学校と地域が工夫をしながら積極的に連携を深め、子どもの健やかな成長を育んでいくことが大切である。

2 年度目標(全市交通・学校園)ごとの評価

年度目標:【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和5年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 令和5年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と肯定的に答える子どもの割合を80%以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

学校は、子どもや家庭の課題に丁寧に向き合っている。今後も引き続き、一人ひとりの子どもを大切にしながら、教育活動を進めてほしい。

不登校の子どもが学校に来ることができない状況から少しでもいい方向にいくように、浪速

区役所や子ども相談センターなどの関係諸機関と連携をしながら、支援を続けてほしい。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、30%以上にする。

○令和5年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

○令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

○令和5年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。

学校の年度目標

○令和5年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

令和元年から“グッとタイム”を、朝の時間に毎日取り組んでいる。また、日々の学習では、「できた!」という自信が積み重ねられるような指導ができるようにしている。令和5年12月に行われた大阪市学力経年調査と令和6年1月に行われた漢字検定の結果から、学力向上の兆しが見えてきている。今後も引き続き、学力向上のために継続して取り組み、粘り強く指導をお願いしたい。

外国籍や外国にルーツのある児童の日本語指導については、学校が努力していることがわかる。今後も、子どもたちのために継続的に指導してほしい。

体力向上については、引き続き、課題を見定めながら取り組みを継続してほしい。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

○学習者用端末を取り入れた活動を週1回以上実施する。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

○「ゆとりの日」を月4回設定・実施する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を83%以上にする。

学校の年度目標

○令和5年度の児童アンケートにおける「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

学習者用端末を活用した学習は、導入時よりも学校でできるプログラムが増え、活用率は上がっている。引き続き指導をお願いしたい。また、大国小学校は児童数も少ないので、少人数であることを生かし、個々の興味・関心を大切にした活用も図り、指導してほしい。

3 今後の学校運営についての意見

○5月に5類に移行したとはいえ、約3年間のコロナ禍において、学習面や体力面の減少傾向があることは容易に想像できる。目標を達成できなかった分を今後どうやってリカバリーしてゆくかが問題になるかと思う。また、コロナ対策で人対人のつながりが薄れたために他人への思いやりや「あいさつ」が軽んじられてきた傾向があるのではないか。また体力不足や運動能力の低下が生じているのではないかと心配する。この間に子ども達に生じた不足分は学校教育の中だけでは十分に補えないかもしれない。今後地域行事とコラボしたり（例えば遠足など）、他校との共同授業等をしたりすることも必要になるのではないか。その際、大国土小学校の枠にとらわれずに子ども達を中心に据えて、利用できるものは地域でも役所でも各団体でも個人でも取り込んで、PTAとの交流も含め、学校発の企画で大人達も巻き込んで頂きたいと思う。

○学力の向上については、学校が様々な取り組みを進めていることは理解できる。今後も、一人ひとりの子どもの実態や課題を把握しながら継続して取り組みを進め学力を上げてほしい。

○地域の取り組みとしては、令和5年度、「大国盆おどり」「大国こども食堂（まんぶく）」「6年大国集会所訪問」など、地域との交流を行うことができた。今後も学校と地域が積極的に連携を深め、工夫をしながら、子どもたちのために取り組みを進めていきたい。

○学校と保護者や子ども見守り隊、区役所や警察が連携し、通学路の安全確保に努めている。その結果、大きな事故や怪我がなく子どもが登下校することができている。

○来年度も、地域と学校が連携しながら、防災訓練や交通安全指導などの取り組みを行っていくことが、地域全体で子どもたちの安全を守っていくうえで大切である。